

令和4年度 5歳児 「発表会」

(令和4年度実践前修正箇所を斜体、実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 1月～2月

2. 設定の理由

一つのお話をテーマにし、様々な登場人物になって学年で取り組む運動会のリズム表現や学級集団で取り組む発表会を、3歳と4歳で計5回経験してきている。また、自分たちの発表会に取り組みながら、5歳児の発表会の取組を見る機会もあり、学年や学級の集団ではなく、自分たちのしたい発表をグループに分かれて発表する姿を目にしている。

これまで、好きな遊びの中では、気の合う友達や同じ遊びをしたいと思う友達同士で集まり、一緒に遊びながら、互いの考えをぶつけ合うことを通して、自分たちの必要から、遊び方や役割、ルールなどを話し合ったり、相談したりして遊びを進める姿が見られるようになってきている。ただし、その個人差は大きく、リーダー的に動く子どもから、グループという小さな集団すら意識しにくい子どもまで、一人一人の子どもを見るとその状況は様々である。

このように様々な状況にある子どもたちが、小学校以降の学習においても学びを積み重ねていけるように、幼児教育から小学校教育への接続を意識し、どの子どもにも必要な学びを保障する必要がある。そこで、11月から12月にかけて、5歳児のクラスの枠をはずし、子ども達が自分たちでしたいお店によってグループを作り、そのグループの共通の目的に向かって進めていくお店屋さんごっこの活動を展開してきた。このお店屋さんごっこでは、年少児や年中児を招待する日を設定し、その日に向けてグループで計画し、活動を進めるという経験をしている。

このような保育の形態をとることによって、グループの友達と意見を調整しながら協力して活動を進める必然性が生まれてくる。するとリーダー的な動きをする子どもを中心とした話し合いが行われるようになる。そして、グループの友達みんなが納得して遊びを進められるようにどうすればいいのか、試行錯誤を繰り返したり、先の見通しをもちつつ、自分たちの願いを実現するために、互いの意志の衝突や一つ一つの問題を解決したりしていくことを期待することができ、自分たちでやり遂げた充実感を味わわせることができると考える。

そこで、今回の発表会においても同様の保育形態を取り、年長の1年間のまとめとして、それぞれの子どもたちが自己発揮しつつ、一緒にグループの友達と共通の目的を自分たちで設定し、相談したり、話し合ったりし、試行錯誤しながら自分たちで諸課題を解決して乗り越え、自分たちの発表を作り上げていく充実感を味わえるようにしたい。

3. ねらい

- ① どんな発表会にしたいか、またその中で自分の発表したいことを決め、同じ発表に取り組みたいと思った友達と一緒に、自分たちの実現したいことに近づけよう、お家の人に頑張りを認めてもらおうなどと目標をもち、そのためにどうすればよいか考え続け、自分たちの発表会や発表を作っていくことをあきらめずにやり遂げようとする。
自ら決める・選ぶ問題を認識する
豊かに発想し、追求の手探いを構築する
- ② 自分たちが発表したいことを創り出しながら、実現したいことに近づいたと感じて喜んだり、自分たちであきらめずにやり遂げたりしたことに満足したり、自分の考えに自信をもったり、自分の頑張りを成長を感じたりする。
自分に満足する
自分を客観的に把握する
- ③ グループの友達の気持ちを聞いたり周りの状況を見たり感じたりして、自分も友達も納得できるよりよい方向に向けて自分の気持ちを落ち着けようとした
気持ちをコントロールする
- ④ 自分の担っている役割を果たそうとしたり、した方がよいと思うことを自分で判断してしようとしたり、自分のしたことを振り返り、どうすればよいのかを考えてしようとしたりする。
よりよい自分に向かう
総合する
自分を客観的に把握する
- ⑤ グループの友達と一緒にしたり助けてもらったりする嬉しさや、やり遂げた喜びを共に感じ、そうして一緒に発表を作りやり遂げる仲間がいることを嬉しく思う。
他者という喜びを感じる
- ⑥ グループの友達と一緒に発表を作り出す中で、友達の話の聞いたり、していることを見たりして、友達の気持ちや考えを知ったり、友達の得手不得手や取り
他者のことを知る

組み方、頑張りなど、今まで知らなかった友達の個性に気付いたり、**認めたり**する。

- ⑦ グループの友達と一緒に発表を作り出すために、自分の気持ちや考えを相手にきちんと伝えたいと思って、**相手の様子を見たり、伝え方を工夫したり、適当な伝え方を選んだりして、分かってもらったり受け入れてもらったりするまで伝えようとする。**

自分のことを伝える
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
実行し、結果をもとに判断を下す

- ⑧ 友達の置かれている状況を考えたり気遣ったりしながら、友達にとってどうすればよいか考えてしようとする。

他者のことを考えて行動する
総合する
人ものごとをすすめる

- ⑨ グループの友達と自分たちのしたい発表ができるように、何が必要か、内容や役割、約束などをどうすればよいか考えてしようとしたり、グループの友達と一緒に、納得するまで考えたり、話し合ったり、試したり、振り返って決めたりしようとしたり、決めたことを守ったり責任をもってしようとしたりする。

問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
実行し、結果をもとに判断を下す

- ⑩ 縄やフラフープ、跳び箱、**一輪車**などの運動用具を使ったり、こまやけん玉の技をしたりする時の、姿勢や身体の使い方、力加減を、見たり体感したり考えたり試したりしようとする。

身体を操作する

- ⑪ **自分たちの発表に必要な物の性質や特徴を感じて用途に応じて選んで使ったり、道具を適切に用いたり工夫して使ったりしようとする。**

事物・現象をとらえる

- ⑫ 自分たちの発表に必要な物を思い浮かべて、大きさや形、色、組み合わせ方などを考えたり、素材の特徴をいかしたり、友達がすることを真似たり、友達の考えを取り入れたりしながら、描いたり作ったり作り変えたりする楽しさを感じる。

造形に表す
関連付ける

- ⑬ 曲調やリズムを感じて、技を切り替えたり曲を選んだり、**アレンジした歌詞がフレーズのリズムやテンポに合っているか聞いたり歌ったりして確かめたり、歌詞の意味を自分の状況や心情と重ね合わせて歌ったり、友達と気持ちを合わせて歌う充実感を味わったりする。**

音楽に表す
関連付ける
自分を客観的に把握する

- ⑭ **言葉からイメージを膨らませて歌詞を作ることを楽しむ。**

文芸に表す

- ⑮ 自分のなりたいものをよりそれらしく表現するために、また、見ている人がどう感じているかを考えて、感じてほしいことをより効果的に表現するために、小道具や大道具、衣装、場のとり方、飾り方、音楽、隊形、プログラムの内容や順番、司会等の役割などを考えたり試したりして振り返り、よりよい方法を選んで、表現しようとする。

演出に表す
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
実行し、結果をもとに判断を下す

- ⑯ 自分の思いや考えを、順序立てたり理由を添えたりして、伝えようとする。

文章の構成を整える

- ⑰ 自分たちの発表の紹介や挨拶に、**発表会にふさわしい**丁寧な言葉を考えて使おうとする。

豊かに発想し、追求の手立てを構想する
語彙・語句を適切に使い分ける
関連付ける

- ⑱ 自分たちの発表の内容やグループの人数に応じて、発表に使える広さ、友達や使うものとの距離や位置を感覚でとらえ、物の置き方や場のとり方、動く方向や身体の向きを考えようとする。

空間をとらえる
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する

- ⑲ **道具が長く使えるように丁寧に扱ったり、限られた時間や場所、物であることを感じて、もったいなくないように大切にしようとしたりする。**

資源を活用する

- ~~⑳ 自分たちの発表に必要な物を用途に応じて選んで使ったり、道具を適切に用いたり工夫して使ったり、丁寧に扱ったりしようとする。~~

道具をあやつる
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する

グループの題材に合わせて追加するもの

- ア. リズムや曲調を感じて音を鳴らすことを楽しんだり、音を聞いて音の高低や質、音階を感じたり、**友達と合わせて音を重ねようとしたり**する。

音楽に表す

- イ. お話のそれぞれの場面の様々な登場人物の**設定や**気持ちを感じたり考えたり、イメージを膨らませて話の展開を考えたりしながら、登場人物の気持ちに近付こうとしたり、友達と一緒にお話を作る楽しさを感じたりする。

文芸に表す

- ウ. 登場人物の気持ちや性格、生態から、表情や言葉、話し方、動き方などを考えたり、場面設定に合わせた動き方や話し方などを考えたり、**曲調や歌詞から**

身体の動きに表す

膨らませたイメージの表し方を考えたり、友達のを考えをとり入れたりして、表現する楽しさを感じる。

4. 展開

発表会の取組に対する期待を高める

A【発表会について話し合う】

- ・3学期に楽しみにしていることを話題にし、発表会をすることを楽しみにする思いを共有する
- ・もも組の時の発表会やこれまでに見てきたさくら組の発表会など、知っている発表会の経験を出し合う
- ・どんな発表会にしたいか、何を大切にしたいか出し合い、共有する
- ・発表会の日や場所を聞く
- ・発表したいことを考えて決め、一人一人のしたいことを出し合う
- ・条件に合うか、発表会としてふさわしいかなどの意見を出し合う
- ・発表したい内容によって学年合同でグループを作る

自分たちの発表に必要なものやすること考えて取り組んだり、発表会の取組に向けて自分たちの生活のリズムを作ったり約束を決めたりする

B【グループで発表会の準備や練習をする】

- ・みんなで集まる時刻、活動場所、練習の仕方、必要なもの、役割分担など、自分たちで練習するためにグループの中で必要なこと、約束を話し合って決める
- ・自分たちの発表に必要なものやことを考えて準備したり、作ったり描いたりする
- ・自分たちの発表したいことができるように友達と一緒に練習する
- ・自分の考えをグループの友達に話したり、友達の考えを受け入れたりしながら、発表しようとしているものがよりよくなるために、グループのみんなで話し合って決めていく
- ・他のグループとの関係で場の取り方を考えたり、安全に気を付けて準備したり、活動を進めたりする
- ・発表会の練習をしながら、グループの課題を見付け、よりよいものになるように考えたり工夫したり話し合ったり相談したり振り返って決めたりする
- ・発表会の日までの見通しをもって、話し合ったり相談したりして計画や自分たちの課題を修正しながら活動に取り組む
- ・自分たちの取組がよく分かるような発表会の名前やグループの名前を決める

人に見てもらうことを意識して発表を工夫する

C【グループの取組を見せ合う】

- ・発表することを学年のみんなで見合う
- ・見る人の立場から、より素敵な発表にするための方法を考える
- ・「面白い」「素敵」「もっとこうしたいほうがいい」と思うところを出し合う

D【みんなで歌を歌う】

- ・歌詞の意味を考えながら歌詞を聞く
- ・歌詞の意味を感じながら歌う
- ・どう感じてほしいかや見る人がどう感じるかを考えて、歌い方や並び方、入退場の仕方、曲紹介や終わりの言葉を決める

自分たちの取り組んできた成果を発表する

E【発表する】

- ・うめ組やもも組を招待して子どもだけの発表会をする
- ・お家の人を招待して発表会をする

A【発表会について話し合う】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・3学期に楽しみにしていることを話題にし、発表会をすることを楽しみにする思いを共有する ・もも組の時の発表会やこれまでに見てきたさくら組の発表会など、知っている発表会の経験を出し合う ・どんな発表会にしたいか、何を大切にしたいか出し合い、共有する ・発表会の日や場所を聞く ・発表したいことを考えて決め、一人一人のしたいことを出し合う ・条件に合うか、発表会としてふさわしいかなどの意見を出し合う ・発表したい内容によって学年合同でグループを作る	○ どんな発表会にしたいか、また自分の発表したいことを決め、発表したい内容が近く一緒に取り組めそうだったと思った友達と一緒に、自分たちの発表を作っていくことを楽しみにする① ○ 一緒に発表を作っていく仲間ができることを喜ぶ⑤	*話し合いをするときに、どんなことを大切にしながら発表したいことに向かっていきたいか共有できるように、大切にしたいことを尋ねたり提案したりしながらこれまでの経験からよさを感じてきている「ともだち（5にんよりおおい）とちからをあわせて」「（グループや学年の友達、先では見る人のことも考えられるように）みんながうれしい」「うみだす」「ゆうぎしつ」というキーワードを文字にして書いて示す。 ◎自分達の発表会がしたいという気持ちがあるように、これまで友達と創り出してきたリズム表現や発表会のことを話し、5歳の発表会とではどうするか尋ね、共有していく。そして、自分が発表したいことを考える時間を十分にとる。 ◎ どんな発表会にしたいのか、どんな自分達を見せたいのか考えようと思えるように、発表する内容を考える手がかりとなるように、ともだちとちからをあわせて「うみだす」「ゆうぎしつ」という大切にしたいキーワードの示している意味を尋ねたり、何故そのことが大切なのかについて話したりする。 *子どもたちが実現したいことに存分に取り組むことができるように、それを支えられる教師の人数から総グループ数は6つまでとする。 *全グループの発表を見てもらえるように、1グループの持ち時間は用意と片付けを含めて15分程度とする。 ◎全体の見通しをもって発表を考えられるように、おおよその持ち時間を知らせておく。 ◎自分が本当に取り組みたいことを十分に考えて決めてられるように、全員でグループを決める日までに取り組みたいことを考えておくよう伝えたり、一人一人の取り組みたいことを個別に聞き取り、全員分を聞き取った後に表示したりする。 *友達の考えている発表やしたいことがよく分かるように、子どもが考えた発表の内容を表示していく。 ◎発表したい内容が近く一緒に取り組めそうだった友達と一緒に、自分たちの発表を作っていくことを楽しみにできるように、出し合った発表の内容を一緒に見ていき、大切にしたいキーワードの条件に合うか、発表会としてふさわしいかなどを一緒に考えながら、グループ作りをする。 ◎仲間ができた嬉しさを感じられるように、グループで集まる場を直後に設けたり、仲間が決まったことを教師も一緒に喜んだりこれからが楽しいな思いを言葉にしたりする。

B【グループで発表会の準備や練習をする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・みんなで集まる時刻、活動場		*発表会の日までの見通しがもてるようにカレンダーを掲示し、今日と発表会の日、準備ができる日数を

所、練習の仕方、必要なもの、役割分担など、自分たちで練習するためにグループの中で必要なこと、約束を話し合って決める ・自分たちの発表に必要なものを考えて準備したり、作ったり描いたりする ・自分たちの発表したいことができるように友達と一緒に練習する ・自分の考えをグループの友達に話したり、友達の考えを受け入れたりしながら、発表しようとしているものがよりよくなるためのことを、グループのみんなで話し合って決めていく ・他のグループとの関係で場の取り方を考えたり、安全に気をつけて準備したり、活動を進めたりする ・発表会の練習をしながら、グループの課題を見つけ、よりよいものになるように考えたり工夫したり話し合ったり相談したり振り返って決めたりする ・発表会の日までの見通しをもって、話し合	○ 同じ発表に取り組みたいと思った友達と一緒に、自分たちの実現したいことに近づけよう、お家の人に頑張りを見てもらおうなどと目標をもち、そのためにどうすればよいか考え続け、自分たちの発表会や発表を作っていくことをあきらめずにやり遂げようとする① ○ 自分たちが発表したいことを創り出しながら、実現したいことに近づいたと感じて喜んだり、自分の考えに自信をもったり、自分の頑張りが成長を感じたりする② ○ グループの友達の気持ちを聞いたり周りの状況を見たり感じたりして、自分も友達も納得できるよりよい方向に向けて自分の気持ちを落ち着けようとしたり、折り合いをつけようとする③ ○ 自分の担っている役割を果たそうとしたり、した方がよいと思うことを自分で判断	明示しておく。 * グループで相談したことを覚えておき、共有できるように、また、見通しをもてるように、さらに、決めたことを責任をもって取り組めるように、書きとめられるように、紙と付箋、画板を用意しておく。 * 子ども達が相談したことをすぐに始められるように、いろいろな遊具や用具、材料をすぐに取り出せる所に用意しておいたり、子どもから要求があればすぐに用意したりする。(画用紙、折り紙、新聞紙、ボール紙、段ボール、箱、カラービニール袋、布テープ、ビニールテープ、セロテープ、油性ペン、色鉛筆、ひも類など) * 発表する内容を考える手がかりとなるように関連する本や掲示、音源等を用意する。 * 発表に必要な物を自分たちで管理したり大切に扱ったりするように、それぞれのグループ毎にまとめて置いておける場所を子どもと一緒に作っていく。 ◎ それぞれのグループの進行状況を見て、目標に向かってあきらめずに取り組んだり考え続けたりできるように、励ましたり、少しでも進歩していることや実現したいことに近づいていることを見付けて褒めたり、一緒に考えたり、ヒントを与えたり、子どもだけでは難しいところを手伝ったりする。 ◎ 一人一人の子どもが自分の考えに自信をもったり、自分の頑張りが成長を感じたりするように、一人一人の子どもが考えられていることやみんなで作っていること、みんなで作って発表を作れるようになったこと、上手くなっていると思っていることを褒める。 ◎ 以前との違いを感じたり、実現したいことに近づいたと感じたりして嬉しい気持ちを感じられるように、取り組んでいるところを動画に撮って一緒に見たり、具体的に言葉にして一緒に喜んだりする。 ◎ みんなと発表を作り上げるために、我慢をせずに納得して進められるように、また自分の気持ちに折り合いをつけてグループで話し合ったり発表会を作り上げたりしようと思えるように、互いの気持ちを伝え合う機会を作り、十分に時間をとって、納得するまで話し合う場を設ける。 ◎ 一方的に我慢してしまうことがないよう、それぞれの子どもの表情をよく見ておいたり、気持ちを落ち着けたり折り合いをつけたりしようとしているのか、言えなくなって我慢してしまっているだけなのかを聞いて確かめたりする。 ◎ 自分のすべきことを考えたり、すべきことをしようとしたりするように、自ら取り組んでいる様子を見守ったり褒めたりし、進んでしようとする姿が
---	--	---

ったり相談したりして計画や自分たちの課題を修正しながら活動に取り組む ・自分たちの取り組みがよく分かるような発表会の名前やグループの名前を決める	してしようとしたり、自分のしたことを振り返り、どうすればよいのかを考えてしようとしたりする④ ○ グループの友達と一緒にしたり助けてもらったりする嬉しさや、やり遂げた喜びとともに感じ、そうして一緒に発表を作っていく仲間がいることを嬉しく思う⑤ ○ グループの友達と一緒に発表を作り出す中で、友達の話を聞いたり、していることを見たりして、友達の気持ちや考えを知ったり、友達の得手不得手や取り組み方、頑張りなど今まで知らなかった友達の個性に気付いたり 認めたり する⑥ ○ 友達の考え、頑張っているようになったこと、作ったものの工夫などを素敵だと思う⑥ ○ グループの友達と一緒に発表を作り出すために、自分の気持ちや考えを相手にきちんと伝えたいと思って、相手の様子を見たり、伝え方を工夫したり、適当な伝え方を選んだりして、分かてもらったり受け入れてもらったりするまで伝えようとする⑦ ○ 友達の置かれている状況を考えたり気遣ったりしながら、友達にとってどうすればよいか考えてしようとする⑧ ○ グループの友達と自分たちのしたい発表ができるように、何が必要か、内容や役割や約束をどうすればよ	見られない時には、周りの子どもに働きかけて、一緒に取り組んでいる周りの友達の気持ちを聞く状況を作ったり、取り組もうとしなかった理由を尋ねたり教師が例をあげて聞き出したりして自分の気持ちに向き合う状況を作ったりする。 ◎ 助けてもらったり、褒めてもらったり、作りあげていくことを一緒に喜んだりできるように、友達を助けたり褒めたりしている姿を褒め、仲間がいてよかった、よい仲間が集まっているなどの気持ちを教師が言葉に出してつぶやき、共感していく。 ◎ 一人一人の子どもの考えが生かされ、互いの考えていることを分かり合って発表を作り上げられるように、一人一人の子どもの考えを聞き合える機会や考えている動きを見せ合える機会を作ったり、子ども達が自分達で相談している様子を見守ったりする。 ◎ 友達の得手不得手や取り組み方、頑張りなど今まで知らなかった友達の個性に気付いたり受け入れたりしていけるように、友達の取り組んでいる様子に着目させたり、一人一人の取組の違いやよさなど教師の気付いた個性を言葉にしたり、個性を受け入れている姿を言葉にしたり する。 ◎ 友達のよさを認められるように、友達の考えや頑張り、作ったものの工夫などを伝えたり、友達を褒めている姿から、褒められた友達の嬉しい気持ちを推し量って伝えたりする。 ◎ 自分の気持ちや考えがグループの友達に伝わる伝え方を考えられるように、様子を見守り、聞き手に分かっていないことはないか尋ねることを促したり、教師がポイントを絞って質問したり、伝え方の選択肢がもてる振り返りの言葉をかけたりする。 ◎ 受け入れてもらえる言い方を考えられるように、言い方によって同じことを言っても受け止めが違うことを例を挙げて伝えたり、相手がどんな様子なのか確かめたり、どんな言い方がよいか尋ねたり、教師の考えた例も挙げて選ぶ状況を作ったりする。 ◎ 友達のことを気かけられるように、友達がどういう状況か尋ねたり、友達から聞く状況を作ったり、知らせたりする。 ◎ 友達の置かれている状況を考えて友達にとってよいことを考えられるように、そうすると友達はどうかを尋ねたり、教師はどうなると思うかを伝えたり、考えていること自体が友達にとって嬉しいことだと褒めたりする。 ◎ 一人一人の子どもがもっているイメージを共有していけるように、考えが同じ所や違う所を整理して書き表すなどして、遊びの進め方や面白くする方法、それに必要なものなど、ポイントを明確にする。 *グループの友達と十分に考えたり試したり振り返っ
--	---	---

	いかを考えてしようとする⑨ ○自分たちのしたい発表ができるように、みんなが納得するまで一緒に考えたり、試したり、話し合ったり振り返って決めたりしようとしたり、決めたことを守ったり責任をもってしようしたりする⑨ ○縄やフラフープ、跳び	たりすることができるように、各グループの練習や準備の拠点となる場所を子どもと相談しながら決める。 ◎グループの発表に必要なことをそれぞれの子どもが伝えられるように、それぞれの子どもがどこを考えたのか具体的に尋ね、全員の意見が出され反映されているか子ども達自身が振り返る機会を設ける。 ◎自分の思いや考えを出しにくい子どもからも、その子なりの考えを引き出せるように、教師が質問する姿を見せたり、リーダー的な動きをしている子どもが自らいろいろな友達の意見を引き出そうとするよさを言葉にしたりして、みんなが考えを出そうとする雰囲気を作っていく。 ◎みんなで話し合って決められるように、同じグループの友達に話したりやってみせたりする機会を作り、見せ合ったり考えたりしていることを褒めたり励ましたりする。 ◎考え試したことをグループのみんなで振り返られるように、試してみてどうだったか尋ねたり、試している所を写真や動画で撮影してグループのみんなで見える場をもったりする。 *他グループの考えに刺激を受けたり、相談に乗ったり、自分たちのことを振り返ったりして、自分たちのしたい発表がよりよくなるように考えられるように、クラスや学年でグループの発表の上手くいったり工夫したりしたことや、困っていることを伝え合う時間をもったり、日常的に発表を見合う機会を設けたりする。 ◎相談したことをグループのみんなで決めた共通の決まりごととして、いつでも見て確かめながら共通理解していけるように、また、自分たちの考えをまとめたり整理したりできるように自分たちに必要なことを紙に書くことを提案したり、一緒に考えながらみんなの考えをまとめる手伝いをしたりする。 ◎自分のイメージに加えて友達の意見や考えを取り入れられるように、他の友達に見せたり、意見を聞く状況を作ったりする。 ◎問題を自分たちで解決していけるように、意見を出し合ったり、友達の意見について考えたり受け入れたりする姿を励ましたり褒めたりする。 ◎みんなで集まって活動しようという意識を全員がもてるように、みんなで集まっているよさを言葉にしたり、離れたところでグループを意識せずに違うことをしている子どもの存在をグループの子どもに知らせ、それでいいのか尋ねたりする。 ◎自分たちの必要から決めた約束を守らないことをそのままにせずみんなで守れるように、友達同士で守らない友達に働きかけられるように励ましたり、応援したりする。 ◎自分の責任を果たそうとできるように、グループの発表の中で、それぞれの子どもが担っている役割を自覚し、その責任を果たそうとしている姿を褒める。 ◎役割を意識できていない子どもが意識できるように、その子どもに自分の役割を尋ねたり、友達に確かめたり、確かめることを提案したりする。 ◎姿勢や身体の使い方、動かし方、力加減を見たり、身
--	---	---

	箱、一輪車などの運動用具を使ったり、こまやけん玉の技をしたりする時の、姿勢や身体の使い方、力加減を、見たり体感したり考えたり試したりしようとする⑩ ○ 自分たちの発表に必要な物の性質や特徴を感じて用途に応じて選んで使ったり、道具を適切に用いたり工夫して使ったりしようとする⑪ ○ 自分たちの発表に必要な物の性質や特徴を感じて用途に応じて選んで使ったり、道具を適切に用いたり工夫して使ったりしようとする。⑪ ○ 自分たちの発表に必要な物を思い浮かべて、大きさや形、色、組み合わせ方などを考えたり、素材の特徴をいかしたり、友達がすることを真似たり、友達の考えを取り入れたりしながら、描いたり作ったり作り変えたりする楽しさを感じる⑫ ○ 曲調やリズムを感じて、技を切り替えたり曲を選んだりする。⑬ ○ 自分のなりたいものをよりそれらしく表現したり、見ている人がどう感じているかを考えて、感じてほしいことをより効果的に表現したりするために、小道具や大道具、衣装、場のとり方、飾り方、音楽、隊形、プログラムの内容や順番、司会等の役割などを考えたり試したりして振り返り、よりよい方法を選んで表	体で感じたり考えたり、試したりできるように、しているところを動画に撮って見せたり、教師がやってみせたり、している友達の姿勢や動きのポイントを具体的に言葉にしながら見せたりする。 ◎ 必要な物の性質や特徴を感じて用途に応じて選んで使ったり、道具を適切に用いたり工夫して使ったりしようとするように、用途を尋ねた上でぴったりの道具が何か一緒に考えたり、使える道具を複数提示したり、工夫して使っている姿をほめたりする。 ◎ 自分たちの発表に必要な物の性質や特徴を感じて用途に応じて選んで使ったり、道具を適切に用いたり工夫して使ったりしようと思えるように、用途を尋ねた上でぴったりの道具が何か一緒に考えたり、どんな性質や特徴なのか尋ねたり、したいことに向けて、使える道具を複数提示したりする。 ◎ 自分たちの発表に必要な物やそれらの大きさや形、色などを考えられるように、発表の中身や登場人物、ストーリーを具体的に尋ねていく。 ◎ 素材の特徴をいかして、工夫して作ったり描いたりできるように、素材のよさやいかせるところを一緒に考えたり、提案したり、他児のしている工夫のよさを褒めたり、もっとかっこよく、あるいはきれいになど、子どもが望んでいる方向へ考えられるように、一緒に考えたり、アイデアを出したり、友達に尋ねてアイデアを聞く場をもったりする。 ◎ 曲調やリズムを感じて、技を切り替えたり見せたいものに合うような曲を選んだりするように、いろいろな曲調やリズムのある曲を準備したり、曲の変化を言葉にしたり、曲調やリズムを感じながら技を切り替えたりタイミングを合わせたりしている姿に注目したりする。 ◎ 自分のなりたいものをよりそれらしく表現できるように、なりたいものの特徴を尋ねたり、特徴となり得る身に付けているものや持ちものなどの要素を伝えたりする。 ◎ 見ている人がどう感じているかを考えて、感じてほしいことをより効果的に表現する方法を考え試すことができるように、教師が客になって感じた表現の工夫のよさを言葉にして褒めたり、分かりにくいところを具体的に言葉にしてどうすればよいか尋ねたりアイデアが出なければ他児に尋ねたりアイデアを例示したりする。また、試したことを振り返られるように、試してみてどうだったか尋ねたり、試す様子を写真や動画で撮影し、見る機会を作ったりする。
--	--	--

	現しようとする⑮ ○ 自分の思いや考えを、順序立てたり理由を添えたりして、伝えようとする⑯ ○ 自分たちの発表の紹介や挨拶に、発表会にふさわしい丁寧な言葉を考えて使おうとする⑰ ○ 自分たちの発表の内容やグループの人数に応じて、発表に使える広さ、友達や使うものとの距離や位置を感覚でとらえ、物の置き方や場のとり方、動く方向や身体の向きを考えようとする⑱ ○ 道具が長く使えるように丁寧に扱ったり、限られた時間や場所、物であることを感じて、もったいなくないように大切にしようとしたりする⑲	◎ 一人一人の子どもが自分の考えを分かるように伝えられるように、友達に考えを伝えている様子を見守り、伝わりにくいところが伝わるように、話のポイントを整理したり質問したり何を言えば友達に伝わるのかを提案したりする。 ◎ 発表会で実際に使う言葉を意識できるように、教師が見る人になりながら、それぞれの場面で使っている言葉について感じたことを伝えたり、よりよい言葉をみんなで考えるきっかけを作ったりする。 ◎ 遊戯室で使える広さをイメージして、空間の使い方や動きを考えられるように、遊戯室以外の場所で活動している時にも、おおよその広さを示したり伝えたり、広さをイメージできる空間で活動できるように場所を探したりする。 ◎ 物を置く位置や動く方向、身体の向きを考えられるように、活動場所にかかわらず常に、お客さんがどこから見ていることにするのか尋ね、向きの共通理解を促す。 ◎ 用途に応じて使う物を選ぶように、適しているポイントを言葉にして褒めたり、より相応しい物を見付けられるように、それで大丈夫か尋ねたり、一緒に適した物を探したりする。 ◎ 道具を工夫して丁寧に扱えるように、工夫している所や扱い方の丁寧な所を褒めたり、どう使ったり扱ったりするとよいか尋ねたりする。 ◎ 道具が長く使うために丁寧に扱おうと思えるように、長く使うためにどうしたらよいか尋ねたり、もったいない状態になっていることに気付かせたりする。 ◎ 限られた時間や場所、物であることを感じて、もったいなくないように大切にしようと思えるように、時間や場所の見通しを伝えたり、限られた状況の中で今どうしたらよさそうか尋ねたり、もったいないことを知らせたりする。
--	--	---

C【グループの取組を見せ合う】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・発表することを学年のみんなで見合う ・見る人の立場から、より見やすく分かりやすくするための方法を考える ・「面白い」「素敵」「もっとこうしたい」と思うところを出し合	○ 他のグループの発表がよりよくなるように、自分の気持ちや考えを相手にきちんと伝えたいと思って、相手の様子を見たり、伝え方を工夫したり、適当な伝え方を選んだりして、分かってもらったり受け入れてもらったりするまで伝えようとする⑦ ○ 自分のなりたいものをよりそれらしく表	◎ 発表を見て感じたことを出し合うことを通して、それぞれのグループの子どもが課題をはっきりと意識し、よりよく改善していこうと思うような伝え方ができるように、見ている子どもが感じた事を伝える際、特にマイナス面については、感じたことを言うだけに終わらせず、どうすればよくなると思ったかを合わせて伝えるよう提案する。 * 発表を見る保護者の位置からの見やすさや分かりやすさを考えられるように、当日のお客さんである保護者が見る位置から友達の発表を見せる状況を作る。 ◎ 発表がより素敵で楽しく見やすくなるように、見ている人の立場から、見ていて楽しいところや分かりにく

う	現したり、見ている人がどう感じているかを考えて、感じてほしいことをより効果的に表現したりするために、小道具や大道具、衣装、場のとり方、飾り方、音楽、隊形、プログラムの内容や順番、司会等の役割などを考えたり試したりして、表現しようとする⑮ ○自分の思いや考えを、分かるように順序立てたり理由を添えたりして伝えようとする⑯ ○発表会にふさわしい言葉、見ている人に分かるように伝えるために必要な挨拶の仕方、話の仕方を考えて使おうとする⑰	いところなどの意見を伝えるよう提案したり、子どもから出なかったポイントを教師も伝えたりする。 ◎みんなで一つのグループの取組を見る時のポイントが意識できるように、どんな意見が役立つか、必要か尋ね、「素敵だと思うところや頑張っていると思うところ」「もっとこうしたらよくなると思うところ」を見付けておき、出し合うことを伝える。 ◎一人一人の子どもの言いたいことを伝えられるように、言葉の足らないところは質問をして聞き出したり、よく分かる順番に話をしている子どもの話し方や理由を添えているところを具体的に褒めたりする。 ◎発表会の場でふさわしい言葉や見ている人にとって分かりやすい説明の言葉や話の仕方に気付けるように、聞いていてよく分かるところをその理由と共に取り上げたり、分かりにくいところを話題に挙げ、どうすればよく分かるか尋ねたり、一緒に考えたりする。
---	--	--

D【みんなで歌を歌う】		
予想される 子どもの活動	ねらい	＊環境の構成 ◎教師の援助
・歌詞の意味を考えながら歌詞を聞く ・歌詞の意味を感じながら歌う ・どう感じてほしいかや見る人がどう感じるかを考えて、歌い方や並び方、入退場の仕方、曲紹介や終わりの言葉を決める	○アレンジした歌詞がフレーズのリズムやテンポに合っているか聞いたり歌ったりして確かめる。⑬ ○歌詞の意味を自分の状況や心情と重ね合わせて歌ったり、友達と気持ちを合わせて歌ったりする充実感を味わう⑬ ○見ている人がどう感じているかを考えて、感じてほしいことをより効果的に表現するために、並び方や入	＊歌に込められた気持ちを感じたり、大きくなった自分や仲間とのつながりを感じたりしながら歌えるように、修了が近く、もうすぐ小学校へ行く今の時期の心情と重なる歌を選ぶ。 ◎アレンジした歌詞がフレーズのリズムやテンポに合っているか聞いてたり歌ったりして確かめたりしようと思えるように、教師が歌って聞かせたり、聞いてどう感じたか尋ねたりする。 ◎歌を通じて自分の気持ちや感謝を伝えることを意識しながら歌えるように、それぞれの歌詞がどういう気持ちを表しているのか、自分たちの心情と重なる部分はどこだったところか、子どもと話をしながら歌詞を伝えたり、その気持ちを思いながら歌いたい思いを共有したりする。 ◎聴き手がどう感じるかを考えて、感じてほしいことがより伝わる方法を考えられるように、歌い方をどうしたいか尋ねたり、どんな方法があるか例を挙げたり、交替で歌って聞き合ったりする。 ◎見ている人がどう感じるかを考えて、感じてほしいことがより伝わる方法を考えられるように、並び方や入退場の仕方、発表の終わり方をどうしたいか尋ねたり、どんな方法があるか例を挙げたりする。

	場の仕方等を考え表現しようとする⑮	
--	-------------------	--

E【発表する】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・うめ組やもも組を招待して子どもだけの発表会をする ・お家の人を招待して発表会をする	○自分たちの発表を通して自分たちであきらめずにやり遂げたことに満足する② ○グループの友達と一緒にやり遂げた喜びと一緒に感じ、一緒に発表を作りやり遂げる仲間がいることを嬉しく思う⑤	*子ども達の日々の成果や当日の頑張りをしっかりと見てもらえるように、どの席からも子ども達の発表が見えるように会場を整える。 ◎発表会当日の自分の出番を意識して準備ができるように、準備を始めるタイミングが分かりやすい目安を伝えておく。 ◎発表当日に至るまでの取組の姿を保護者に分かってもらえるように、それぞれのグループが乗り越えてきた課題やその過程、成長、楽しんできたこと、などを各グループの発表の片付けと準備をしている間に、保護者に伝える。 ◎自分たちが取り組んできた成果が自信をもって一人一人の子どもが力を発揮して発表できるように、励ましたり気持ちを引き締めるよう声をかけたりする。 ◎一人一人の子どもがあきらめずにやり遂げた満足感を十分に感じられるように、頑張ったことを受け止めて褒めたりやり遂げたことを一緒に喜んだりする。 *発表で見てほしかったことや伝えなかったことが伝わったりやり遂げたりした満足感を感じられるように、保護者に付箋に感想を書いて貼りだしてもらい、すぐ見られる場を設ける。その際、子どもにとって見やすいように、ひらがなで書き、グループ毎等カテゴリー分けして貼ってもらうようにする。 ◎グループの友達と一緒にやり遂げた喜びと一緒に感じられるように、タッチをしたり肩を組んだりなどする姿と一緒に喜んだり、タッチや肩組みなどするきっかけを作ったりする。 ◎一緒に発表をやり遂げる仲間がいる嬉しさを感じられるように、これまでの友達との頑張りが友達がいなかったからこそのことを具体的な例を挙げて振り返る。

グループの題材に合わせて追加するもの

予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・楽器を鳴らす ・楽器を作る	○リズムや曲調を感じて音を鳴らすことを楽しんだり、音を聞いて音の高低や質、音階を感じたり、友達と合わせて音を重ねようとしたりする。⑦	◎リズムや曲調を感じて音を鳴らすことを楽しめるように、教師も一緒にリズムに合わせて体を揺らしたり歌ったり、曲調の変化を言葉にしたり曲調を感じながら音の鳴らし方を変えている友達の姿に注目させたりする。 ◎音の高低や質、音階を感じられるように、いろいろな素材の入れ物や棒、楽器を用意したり、簡単な曲を何曲か提案したり、音階のある楽器を紹介したりする。 ◎友達と合わせて音を重ねようと思えるように、友達の音をよく聞くよう促したり、録音したものを一緒に聞いてどう思ったか尋ねたりする。

・お話を作る ・役になって演じる	○お話のそれぞれの場面の様々な登場人物の気持ちを感じたり設定を考えたり、イメージを膨らませて話の展開を考えたりしながら、登場人物の気持ちに近付こうとしたり、友達と一緒にお話を作る楽しさを感じたりする。 ㊦ ○登場人物の気持ちや性格、生態から、表情や言葉、話し方、動き方などを考えたり、場面設定に合わせた動き方や話し方などを考えたり、曲調や歌詞から膨らませたイメージの表し方を考えたり、友達の考えを取り入れたりして、表現する楽しさを感じる。 ㊦	◎話の様々な場面での登場人物の気持ちや設定を考えられるを感じられるように、場面の状況や登場人物の性格などを具体的に尋ねたり、教師が想像する登場人物の気持ちを言葉にしたりする。 ◎お話を作る楽しさを感じられるように、考えたお話の面白さを言葉にして伝えたり、面白い展開がひらめくヒントを出したり、教師がお話を考えることを楽しむ姿を見せたりする。 ◎作ったお話の面白さやお話の鍵となる出来事や場面を振り返り、お話の作りを意識してより面白く分かりやすくしていけるように、展開を書き出すことを提案したり、聞いて書いたり、一緒に整理したりする。 ◎登場人物の気持ちや性格、生態、場面設定から感じたことを表現できるように、登場人物の気持ちや性格、生態、場面の状況などを具体的に尋ねたり、それらがイメージしやすい言葉をかけたりする。 ◎曲調や歌詞から膨らませたイメージの表し方を考えようと思えるように、曲調や歌詞からどんなことをイメージしたか尋ねたり、教師が感じたイメージをやってみせたりする。 ◎友達の考えを取り入れて表現することを楽しめるように、友達の表現を見る機会を設けたり、素敵だと感じた所を尋ねたり、取り入れてさらに素敵になったことを具体的に言葉にして褒めたりする。
---	---	--